

移動式廃棄処理事業について



平成30年2月8日(木)
第18回遺棄化学兵器処理事業に関する有識者会議

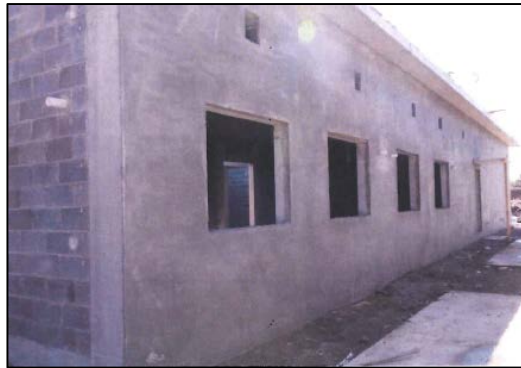
2017年度事業

ハルビンの廃棄処理事業

【進捗状況】

○廃棄計画の下、2022年までに約6000発を廃棄予定。

○2017年度は、次年度中の完成に向けて建屋の建設が進展。



医療棟

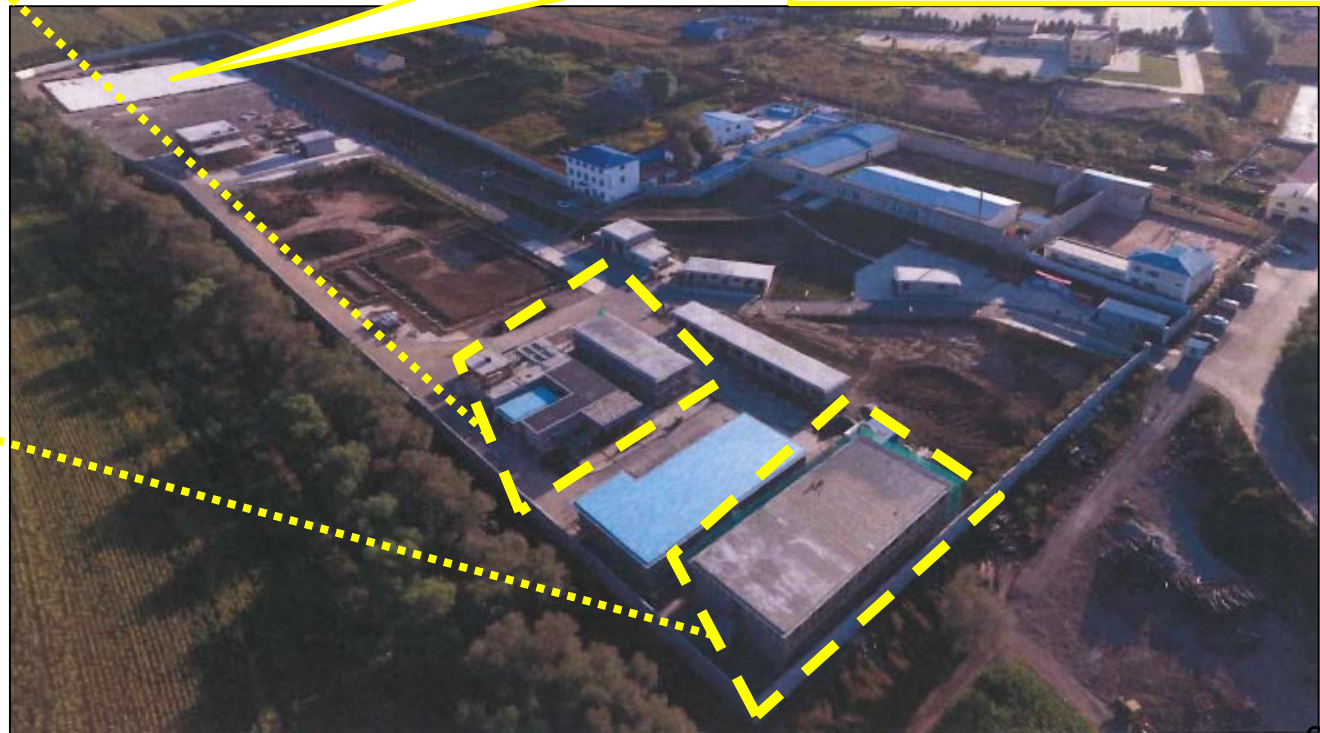


事務室

処理設備収納庫

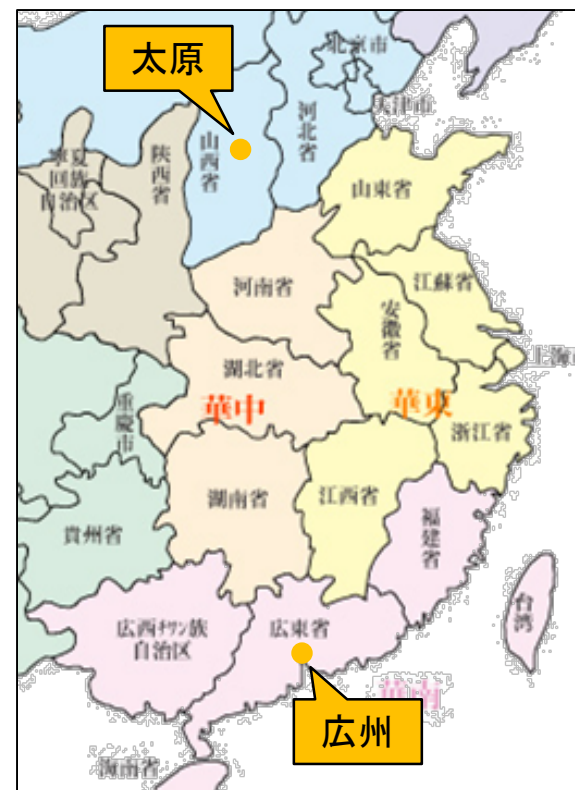


ハルビン処理場の現状



【進捗状況】

- 廃棄計画の下、2022年までに広州で315発、太原で316発を廃棄予定。
- 今年度の日中協議で、広州、太原とも高機動型処理設備によって、2022年中に廃棄処理の完了を目指すことで合意。
- 一方、広州、太原とも、未だ用地が決定していない。



広州と太原の位置

【日中間で一致】

- 廃棄計画を踏まえ、砲弾処理用（Ⅰ型）、きい剤補給容器処理用（Ⅱ型）を各1台導入。
- Ⅰ型は、まずは広州、太原に展開。
- Ⅱ型は、前処理（小分け等）を必要とせず、安全且つ迅速な処理を前提とし、ハルビン、ホロンバイル、瀋陽等に展開し、きい剤補給容器を処理する。
- 廃棄物処理の可能性も検討

【進捗状況】

- 石家荘について、2017年1月の処理場閉鎖(2567発)を受け、既に処理設備の除染・解体が完了。2017年度内に設備の日本国内への返送を行うほか、終了段階の環境モニタリングも実施予定。
- 南京、武漢についても本年度(12月)に終了段階の環境モニタリングを完了(分析結果は2月中旬に判明予定)。



南京、武漢、石家荘の位置



終了段階の環境モニタリング(南京)

2018年度以降の主な課題

- ハルビン処理場での廃棄処理開始に向けた取組（建設、砲弾輸送、諸計画の調整等）
- 広州、太原の廃棄処理に向けた取組（用地の確定、高機動型処理設備の導入に向けた対応等）
- 石家荘の原状回復
- 廃棄物の最終処分先の確定に向けたドイツへのパイロット輸送

廃棄物の最終処分に係る検討（パイロット輸送の実施）

- 遺棄化学兵器処理事業の過程で発生する砒素含有有害廃棄物を、ドイツK+S社が運営管理する、岩塩抗を利用した地下廃棄物処分場で最終処分する方向で検討。
- 2018年度、南京の処理場に引き続き保管中の廃棄物の一部を、ドイツK+S社の処分場に試験的に輸送して最終処分を行う。



岩塩抗の内部



廃棄物の保管

